

FAO Newsletter

2007年8月
Vol.17



今月の統計

サハラ以南アフリカの
栄養不足人口
2001-03年
2億620万人
(3人に1人の割合)

発行：(社)国際農林業協働協会(JAICAF) www.jaicaf.or.jp 〒107-0052 東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階 TEL：03-5772-7880 Email：fao@jaicaf.or.jp

Contents

目次

- 鳥インフルエンザへの対応が進展
- 「アフリカの角」で飢餓と闘う
- レソト、食料危機に直面
- イエメン、15年間で最悪なバッタの大量発生
- FAOテレフードチャリティーコンサート2007開催決定
- 子どもたちに学ぶ機会を、遊ぶ機会を
- 「世界の食料不安の現状2006年報告」日本語版を発行
- 外務大臣に対してODAの増額を要請
- FAOについての出張講義と訪問学習
- 講演会「途上国農業を支援するFAOの役割」

鳥インフルエンザ

Avian Influenza



鳥インフルエンザへの対応が進展 エジプト、インドネシア、ナイジェリアの状況は依然深刻

過去3年間に、H5N1ウイルスへの対応は改善されましたが、依然としてエジプト、インドネシア、ナイジェリアで事態は深刻な状況にあります。鳥インフルエンザとの闘いで一番問題となるのは、多くの国で行われている家きんの生きたままの市場取引に伴うリスクが高いことです。ウイルスが家きんに存在する限り、人への感染の潜在的な可能性は否定できません。このように危険な慣行が改善されなければ、感染再発のリスクは高いままです。ウイルスが存在し続ければ、最終的にこのウイルスの蔓延を食い止め、根絶するために、政府や国際社会による長期的な財政的・政治的取り組みが必要となります。(6/27、ローマ)



FAO/Tarik Thazay

▲鳥インフルエンザ感染拡大への対応が進む

関連ウェブページ

Technical Meeting on Highly Pathogenic Avian Influenza and Human H5N1 Infection : www.fao.org/avianflu/en/conferences/june2007
Avian Influenza website : www.fao.org/avianflu

アフリカ

Africa



「アフリカの角」で飢餓と闘う

アフリカ6カ国の政府（ジブチ、エリトリア、エチオピア、ケニア、ソマリア、ウガンダ）と国連は、干ばつに悩まされる「アフリカの角」地域における飢餓の根本原因に取り組むためのロードマップについて合意しました。「アフリカの角」では、次に



FAO/19452/R. Faidutti

▲最近6年間に4度の重大な食料危機が発生

危機が生じた場合、約2,000万人が緊急援助を必要とすると警告されています。単発的な対処ではなく、長期的に危機を解消させるため6つの優先事項が明らかにされました。それは多くの遊牧民と農民を支えるための協力関係、砂漠化や土地荒廃などの環境問題、農村部開発での女性の役割、食料不足に対する所得創出活動と生計多様化、リスク管理と危機対応、そして組織強化とコミュニティに注目したキャパシティー・ビルディングです。(6/26、ナイロビ/ローマ)

関連ウェブページ

FAO Technical Cooperation Department : www.fao.org/tc
WFP (世界食料計画) : www.wfp.org
OCHA (国際人道問題調整事務所) : ochaonline3.un.org

レソト、食料危機に直面 最近30年間で最も深刻

FAO/WFPの報告によると、深刻な干ばつの影響により、レソトでは、2008年第1四半期に人口の5分の1に当たる40万



▲干ばつによるトウモロコシの被害

人が食料援助を必要とする予想されています。2007年の予想国内穀物生産量7万2,000トン、不作が続く最近5年間の平均を40%下回っています。レソトが必要とする年間穀物量36万トンを満たすために、輸入分と既存の食料供給を考慮すると、3万トンの穀物と、6,700トンのその他の作物が必要であると予測しています。干ばつにより生産量が大幅に減少しただけでなく、予測のつかない天候や、HIV/AIDSによる労働力の減少により、過去5年間の平均に比べて穀物生産地域が20%も減少しています。報告書はまた、この地域での主要な食料供給元である南アフリカにおいてトウモロコシの価格が上昇したため、多くの人々の購入力が奪われていることが最大の問題である、としています。(6/13、ローマ)

関連ウェブページ

Special Report: Lesotho : <ftp://ftp.fao.org/docrep/fao/010/ah865e/ah865e00.pdf>
Global Information and Early Warning System for Food and Agriculture (GIEWS): www.fao.org/giews

FAO

イエメン、15年間で最悪なバッタの大量発生

FAOは、イエメンにおいて1993年以来最悪の砂漠バッタ発生の可能性があるとして警告しました。今年3月と6月初めの前例のない大雨が、バッタの繁殖を促しています。現在イエメン奥地でバッタの大群が発生しています。近々予想される大雨と、オマーン上空を通過する強いサイクロンによる風の影響により、状況が悪化する可能性もあります。現代のバッタが成長し、卵を産んだ場合、サウジアラビア内部が被害を受けるかもしれません。FAOは地域のバッタ被害を最小限に止めるために、7月半ばからヘリコプター2機を使用した防除キャンペーンを始めるように薦めています。イエメン政府も対応に当たっていますが、自動車、殺虫剤、噴霧器、通信機器、そして訓練された人材の不足に直面し、問題に十分対応することができないため、最初の対策が行われる9月までに、国際的な援助も必要とされています。(6/6、ローマ)



▲砂漠バッタは日々、自分の体重と同量の植物を消費する

FAO/Giampero Diana

関連ウェブページ

Locust watch : www.fao.org/ag/locusts
View photographs from Yemen : <http://www.fao.org/ag/locusts/en/info/dailyphotos3>

テレフード

World Food Day



FAOテレフードチャリティーコンサート2007開催決定

10月19日(金)、FAOテレフードチャリティーコンサート2007「大地の詩」が横浜みなとみらい大ホールで開催されます(19時開演)。このコンサートは、低所得で食料不足に苦しむ人々に対する食料増産の支援を目的とするテレフード・キャンペーンの一環として、「世界食料デー」(10月16日)を記念して1999年から行われているものです。今年は「故郷の大地を想う」と題して、テノール歌手の新垣勉さんを特別出演で迎え、シタール奏者のチャンドラカント・サラデシュムクさん、そしてFAO準親善大使の西本梨江さん(ピアノ)が、日本の名曲の数々を披露する予定です。

コンサートの収益金が全額テレフード募金に寄付されるほか、

当日は会場でも募金を受け付けます。

チケットはFAOコンサート事務局(Tel 045-853-1512)ほかでお求めいただけます。

(料金〔一般〕S席4,500円・A席3,500円、〔小学生〕S席4,000円、A席3,000円)



関連ウェブページ

プレスリリース: 「FAOテレフードチャリティーコンサート2007」を開催します: <http://www.fao.or.jp/news/documents/2007.07.26.pdf>



子どもたちに学ぶ機会を、遊ぶ機会を



FAO/G. Lo Sturco

▲児童労働は人の目に触れにくいいため公式の数字に表れないことも多い

6月12日、「児童労働*反対世界デー」にあたり、FAOは農業における児童労働に対する取り組みを優先的な政治課題にしなければならないと表明しました。ILO（国際労働機関）の推計によると、世界中で2億1,800万人が児童労働を強いられており、そのうちの7割が農業分野に従事しています。この割合は全農業労働人口の3分の1にもものぼります。また、農業は鉱山業、建設業と並び最も危険有害性の高い職業でもあります。貧困のために児童労働を強いられ学ぶ機会を奪われた人々の子どもたちが再び児童労働を強いられる、という悪循環すら見られます。一方で、インド・ケララ州やラテンア

リカ・カリブ海諸国では、困難と言われた児童労働の削減に成功しています。このような取り組みもあり、近年、世界の児童労働は26%の減少を見せています。（6/12、ローマ）

*ILOの定義：子どもの健全な成長を妨げる労働を指し、家や田畑での手伝い、小遣い稼ぎのアルバイトなどは含まれない

関連ウェブページ

FAO site on child labour : www.fao.org/sard/en/init/964/2687/2875

Child labour in agriculture : <ftp://ext-ftp.fao.org/ES/data/ESW/WDACL/ChildLabourEnglish.pdf>

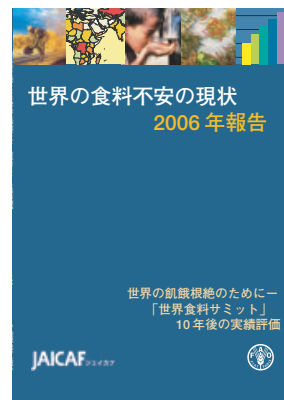
ILO : www.ilo.org

IFAD（国際農業開発基金） : www.ifad.org

IUF（国際食品関連産業労働組合連合会） : www.iuf.org/www/en

「世界の食料不安の現状2006年報告」日本語版を発行

世界の食料不足に関するFAOの年次報告書の日本語版「世界の食料不安の現状2006年報告 世界の飢餓撲滅のために—『世界食料サミット』10年後の実績評価」をJAICAFより発行いたしました。日本語版報告書はJAICAFのホームページで公開しています。



関連ウェブページ

JAICAF: FAO関連出版物: www.jaicaf.or.jp/fao/publication/index.htm



外務大臣に対してODAの増額を要請

6月26日、FAOほか国連機関駐日代表13名は合同で麻生外務大臣を表敬訪問し、日本のODAの減少に対する深い懸念を伝えました。

日本のODA予算は、1990年代半ばから減少を示し、最近10年間で38%の減少を示しています。この傾向が続けば、ミレニアム開発目標（MDG）の達成や人間の安全保障の確立にも影響が出かねません。また、来年はTICAD IVやG8サミットの会合が日本で予定されており、従来にも増して国際社会の中で日本の存在感を示すことが期待されています。

このようなことから、国連機関駐日代表は外務大臣に対し、日本が今後とも国際社会の諸課題への取り組みに主導的役割を果たしうよう、ODAの増額を要請しました。

FAOについての出張講義と訪問学習

6月26日、日本大学生物資源科学部国際地域開発学科の1年生約100名に対し、国際機関特別講義の一環として、八木企画官によるFAOに関する講義が行われました。主な内容は組織の概要、飢餓撲滅の目標と現状、FAOの使命と活動等で、メモをとりながら熱心に耳を傾ける学生の姿が目立ちました。

7月9日には、国安副代表が学習院女子大学国際文化交流学部で、2、3年生約30名に対して「世界の食料問題



FAO/OUJA

▲講義後に質問する日大の学生

とFAOの役割」という講義を行いました。食料自給の問題、国際機関と日本人職員の数、女性の職場としての可能性など、国際協力活動参加への関心の高さがうかがわれました。

7月3日には横浜市希望が丘高校の3年生21名が、横浜国際協力センターに来訪。FAOやその他の国際機関を訪問し、各機関の活動内容について説明を受けました。ヤオ広報・調査専門官が行ったFAOの活動紹介後には、中国での飢餓人口とオリンピック開催について、FAOが特別に食料に配慮するのか、といったユニークな質問もありました。

また7月11日には、東京農工大学獣医学科の5、6年生9名の訪問がありました。鳥インフルエンザ対策を例にしたFAO活動等の説明を受けた後、熱心な意見交換があり、近い将来直面することとなる獣医・畜産業務に対する決意を新たにされていたようでした。

講演会

「途上国農業を支援するFAOの役割」

7月18日、JAICAF・農林水産政策研究所の共催により、農林水産政策研究所霞ヶ関分室にて「第2回食料・農業協力講演会」が行われました。今回は、前FAOカンボジア事務所長の木本長（つかさ）氏を講師に迎え、「途上国農業を支援するFAOの役割」をテーマにお話をいただきました。

木本氏は、FAO現地事務所の所長を歴任された経験をふまえ、途上国農業を支援する役割を中心にFAOの活動を紹介します。また、加盟国の増加や組織拡大に伴い、FAOが抱える問題や役割の変化にも触れ、この対策として最近始まった機構改革について、現状と期待を述べました。

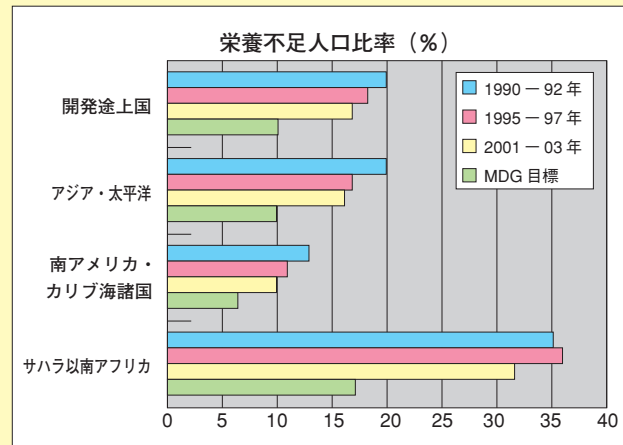
*講演録を季刊誌「世界の農林水産」2007年冬号に掲載予定



▲講師の木本氏

PRIMAFF

今月の統計をよむ



今日、開発途上国では6人に1人、約8億2,000万人の人々が十分な食料が得られず、飢餓に苦しんでいます。このため、国際社会は、ミレニアム開発目標（MDG）のひとつとして、2015年までに栄養不足人口比率を半減することに取り組んでいます。

これまでの進捗状況を見ると、アジア、南アメリカでは、改善が進みつつありますが、3人に1人の栄養不足人口を抱えるサハラ以南アフリカではあまり状況が改善されていません。

サハラ以南アフリカでは、近年、穀物の輸入が増えており、エネルギー作物として需要の増大等による穀物の国際需給の逼迫により、穀物の輸入代金がますます膨らんでいます。灌漑の普及、適切な肥料の投入、品種改良、技術指導等により、穀物生産の拡大を図ることが、急務となっています。

(FAO日本事務所長 横山 光弘)

テレフード募金にご協力をお願いします

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフードプロジェクト」に使用されます。

郵便振替口座

00140-1-29732

(FAO飢餓撲滅草の根募金)



TeleFood
Food for ALL

メールニュース配信のお知らせ

FAO日本事務所では、FAOに関する各種情報をEメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

ニュースレターの配付について

本紙は、季刊誌「世界の農林水産—FAOニュース—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。

*ニュースレターは指定場所でも配布しています。

8月の活動予定

※青字は日本国内

- 8/12-18 World Water Week
- 8/20-22 Asia-Pacific Fishery Commission Executive Committee (71st Session) Jakarta, Indonesia
- 8/21-23 **ファームキャンプ2007 (栃木県那須塩原市)** ICF主催、FAO日本事務所後援
- 8/22-23 **横浜子どもアドベンチャー2007 (みなとみらい、関内周辺)** 横浜市ほか主催、FAO日本事務所協力
- 8/27-28 **たべる、たいせつフェスティバル (東京国際フォーラム)** 日本生協連主催、FAO日本事務所ブース出展